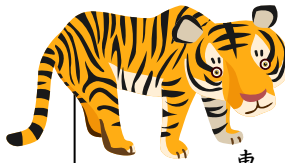


協議会たより

第 121 号 発行平成 22 年 1 月 6 日



東京都障害者スポーツ指導員協議会
会長 前田康博

皆様 明けましておめでとうございます。昨年、東京 2009 アジアユースパラゲーム大会、第十回東京都障害者スポーツ大会及び第九回全国障害者スポーツ大会トキメキ新潟大会等の皆様方のご活躍によりまして、我が、東京都障害者スポーツ指導員協議会が障害者スポーツに多大なる貢献をしていると、東京都及び関係団体の方々からお褒めの言葉をいただき、非常に嬉しく思っております。変化の激しい年に皆様方のご協力によりまして、障害者スポーツにはかせない団体であるかを認識していただきましたことは、これからの東京都障害者スポーツ指導員協議会の発展に大いにつながることを考えております。日頃の皆様方のご活躍およびご協力によるものと、深く感謝申し上げます。本年もいろいろと課題の多い年になるようですが、東京都障害者スポーツ指導員協議会の発展と普及は皆様方の「力の結集」によるものと深く信じております。今年もどうぞ、よろしくお願い申し上げます。

謹賀新年

会員の皆さんの活動報告

学ぶ・知る部門では…

中級スポーツ指導員養成講習会に参加して

平成 21 年 10 月 22 日(木)～25 日(日)、東京都障害者総合スポーツセンターで実施された「中級スポーツ指導員養成講習会」に参加致しましたのでご報告致します。

この講習会は、(財)日本体育協会公認スポーツ指導員資格保持者で 5 年以上の指導経験を持つ者(初期登録から 3 年以上)が参加条件であったため、体育学の領域は免除となり 4 日間での短縮講習でした。

講習内容は、医療・障害者スポーツの歴史・競技規則・大会運営を中心に学習をしましたが、その中でも「障害各論」や「補装具の理解」については普段自ら学ぶことがない領域であるため、大変勉強になりました。また、実技についても障害別に事例を入れながら指導のポイントを学ぶことができ、自分が指導できる(自分の可能性)範囲が広まったと思います。

今後は、これまで携わってきた障害や種目だけではなく、知的障害・視覚障害・聴覚障害・肢体不自由等の障害に関係なくアドバイスができるスポーツ指導員になりたいと思います。そして、誰もが平等にスポーツ・レクリエーション活動及びリハビリテーションができよう援助していきたいと思います。

また、全国には「健常者と同じようにスポーツをやってみよう」という方が沢山いるのではないかと思います。資格を取得している人数(初級指導員:19,955 人、中級指導員:2,212 人、上級指導員:608 人、平成 21 年 1 月現在)が全国の障害者に対してまだまだ少ないのではないかと感じますので、障害者スポーツに携わる方々が増えるように、普及活動をしていきたいと思ひます。そして、講習会参加では様々な種目のスポーツ指導者と交流することができましたので、ここで知り得た人脈を財産にして今後も引き続き学習していきたいと思ひます。

この講習会では、現場でご活躍の先生方だけではなく、実際にスポーツを楽しんでいる選手の方々にも沢山のアドバイスを頂きました。選手の方々の生の声を生かして指導ができるように工夫をしたいと思ひますので、今後ともご指導の程宜しく願ひ致します。以上 (K)

障害者スポーツボランティアリーダー講習会に参加して



10 月 24 日(土)に多摩障害者スポーツセンターで開催された障害者スポーツボランティアリーダー講習会に参加させていただきました。当日朝、多摩スポに到着して直ぐに担当の柳橋さんにお会いした。今日も元気な様子である。

集会室に入ると川上さんという職員さんが待っていた。初めてお会いするかたであった。王子のスポーツセンターで働いているとのことだったので納得した。恥ずかしながら、自分はボランティアになって未だに王子には行っていない。王子でも同様の講習をするので参考にお手伝いしてきたとの事でした。

講習会は、最初に柳橋さんの開講のご挨拶とプログラムの説明があり、続いて参加者が簡単な自己紹介を行った。参加者は、過半数の人が顔見知りで8名でした。男女も半々で、年代もバライティに富んでいてバランスがいい感じでした。参加者の自己紹介を聞いてみて若い人でもかなり前からボランティアをなさっていて、自分が一番経験が少ないと感じました。8名のほかに特別に東京都職員で障害者関係担当の若い人が午前中だけ参加されて多摩スポの活動視察??をされていました。その後、体育館に移り午前中は高山さん(多摩スポ職員)から「障害者スポーツの現状と実際」についての講義を受けました。講義は、パソコンを使いながら、参加者に質問等しながら飽きさせないでわかりやすい説明でした。実際の活動写真も豊富に用意されていて活動状況をよく理解できたが、贅沢をいえば動画も使えたら言うことなしでした。高山さんは、参加者が皆よく知っている人で話しぶりいいながらも、聞いている人をひきつけて話されていて、いつもながら感心させられました。

午後は、「グループ指導の要点と実施」というテーマで金子さん(国立市社会福祉協議会)から講義・実技をして頂いた。最初にグループ支援の三つの気づきという内容での講義で、自己紹介をしながら聞く側の方は講師より指示された態度(紙で話す人にはわからない)で聞くというゲームを通して自分に気づく、周囲の他者に気づく、グループの状況に気づくという事を教えて頂いた。普段、その日のグループは、どんな人達かを意識して考える事がなかったので、意識してのグループ把握をする大事さを気づかせられました。ほかにも自分あてクイズ(背中に動物の名前をはってもらい、他の人への質問だけでその動物を考える)等もあり、相手にわかってもらう質問、回答のしかたがいかに大事かを楽しく理解できました。また、ゲーム終了後の参加者への一言として「できなかった人」、「間違えた人」へのフォローの言葉の紹介があり、この言葉ならばゲームに参加した全員が楽しい思いになるなど感じ、さすが講師と思ったりしました。

その後、企画・プログラムの検証というテーマと安全管理という事で「PDCA サイクル」、「A-PIE プロセス」と「ハインリッヒの法則」についての講義があった。ひとつの重大事故の下には30の事故と300の「ひやり・はっとする」があり、この「ひやり・はっと」の部分に注意する事が大事との説明があった。自分は、いくら楽しい催しでも事故があったら意味もなくなるので安全管理が一番大事だと日頃から考えています。リーダーとしてどのようにしたら事故をなくせるかの具体的な話がなかったのが残念です。

休憩をはさんで、三時すぎからは「実際の現場を想定したプログラム作成・実践練習」というテーマでの実技講習があった。参加者が二人組のペアになり、課題の「アイスプレイングを考えよう!」にとりくんだ。自分は、水泳教室のボランティア等をなさっている同年代のMさんとペアになり考えました。アイスプレイングとは活動の導入時の軽い運動やゲームで、10分位の楽しいものを対象者(障害・年代)も含めて企画するように指示されました。私達は、対象者を肢体不自由(下肢部分)・成人と幅を狭く設定して、内容はボールをつかったゲームを考えました。二人の経験のなかからの企画だったので、ほかの人達より早くまとめられたようでした。他のチームは、知的障害の人を対象として企画をたて、「握手とハイタッチ」、「むかで電車あそび」、「ひもを使った体操とゲーム」と内容はいろいろでした。企画ができあがった後で、其々の企画を主催者と参加者にわかれて実際に行いましたが、参加者役の演技がすばらしくて、皆さん参加者の指導にてこずりながらもアイスプレイングを実演しました。模擬実演ながらも、いい経験をさせていただき、参加者からも貴重な意見があり為になりました。

閉講式を終了して多摩スポをでたら雨が降っていました。そんな事にも気がつかないほど熱中できて、有意義な講習を受けた一日でした。今後の活動に生かしたいと思っています。(F)

世田谷区の事業に参加して

指導員資格取得して3年目、名ばかり資格から脱却することが出来ました。

多摩 SC 主催のフォローアップ講習会の参加や単発なイベントしか入らなかった私は、今年こそは継続しながら出来るものはないか?考えていました。そのことを私が尊敬している指導員の方に相談しようと思った矢先、その方が王子 SC へ異動と聞き、私の思いが消えかかる状態。

年間協力の依頼の返答書が届き、それから世田谷事業のお知らせが届きました。

継続型の事業、自宅に近いこと、それに1番の理由だったのは王子 SC に異動になった指導員の方が担当だったことが申し込むキッカケとなりました。いざ飛び込んだのは良かったのですが、補助員じゃなくて指導者としての立場、新規の事業なので、全てがゼロからのスタート。経験不足や勉強不足からの自信喪失状態に入り、受講生から「来週も来てくれるよね?」という言葉がプレッシャーとなり、指導員の方に自分の状態と気持ちを手紙の形で伝えました。指導員の方は丁寧な返事を書いて下さいましたが、私は続ける…辞める…という岐路に立っていました。辞めるということは簡単に出来ます、でもそうすると、自分の今年こそは…という目標が無くなってしまふ。それに他のことでも簡単に諦める…逃げ出す…と思ったのです。

そんな時、王子 SC 主催の研修会に出席した時、王子 SC に異動になった指導員の方と再会しました。多摩 SC でしか会ったことがなかったし、初めて訪れた場所で、一番会いたかった人に会えた喜びが勝り、「来月になったら行くか

ら」という言葉に心の底からガッツポーズ！そして研修会では先輩指導員の方と再会して、私の胸のうちの告白すると、「何時でも相談に乗りますよ 一緒に楽しみましょう」という言葉を送って下さいました。背中を押してもらった気持ちになり、私は続ける…という一歩も踏み出しました。指導者として、毎回、指導案シートを作成するようになりましたが、ここでまた何度も自信喪失。でも辞めよう…とは思わず、なぜダメなの？ どうしてダメなの？と考えるように。また「失敗しても大丈夫 そこから何かが生まれてくる」という言葉を言われて、私の中で教えることばかり押しつけていることに気づきました。

今では適切なアドバイス+鋭いツッコミを交えて、返答が返ってきます。指導力はもちろん向上しましたが、物事の考え方を考え直すキッカケにもなりました。ものすごく私の中ではゆっくりですが、色々な事への自信に繋がっていききました。ただ日曜の午後ということもあり、なかなか人材が集まらないのが現状で、それだけが今の私には不安があります。王子 SC には無い 多摩 SC には無い形や色で、この世田谷事業は形成されていき、色が出てきています。私のように名ばかり資格の方、ベテランの方、ちょっと覗いてみませんか？

きっとハマってしまうかもしれませんが！・笑 (I)



障害者スポーツ指導員として

私は偶然始めた障害者スポーツ補助員として多くのことを学びました。

まず、利用者と 1 対 1 でバドミントンをした時でした。私は今まで、羽根を落とさずに長く打ち合えることが楽しいものだと思っていました。しかしその時は、1、2 回しか続けられずその繰り返しで終わってしまい、利用者とはつまらなかったのではないかと、もっと上手に相手できたらよかったのにと思いました。しかし、最後に一瞬笑顔を見せてくれたのです。その瞬間、その人にとって羽根を誰かと打つことが楽しいのであって、必ずしも長く続けられなくても良いのだと感じました。

それから、一人一人その人にとってのスポーツの楽しさとは何か、その楽しさを持続させるにはどうすればいいのか、ただ一緒に楽しむことだけでいいのかと、色々課題が出てきました。

そして今回、すぎなみ地域大学の障害者スポーツボランティア講座を受講したことで私は大きな一歩を踏むことができました。講座ではスポーツのことだけでなく、日常生活や関わり方など様々な立場の方から色々な場面について学ぶことができました。そして、その日々の暮らしを知ることで、スポーツの大切さを学ぶことができました。

スポーツを通して人との交流が持て社会と繋がり、また一人一人の新たな発見にもなる。そういう場を作ることが指導員としての役割だと思いました。

スポーツをするにしても、利用者を知ることにしても、一つのことにこだわらず、様々な視点で取り組んでいきたいと思います。(K)

平成 21 年度 第 3 回 研修会「スポーツ吹き矢」

去る、平成 21 年 11 月 14 日(土)に東京都障害者総合スポーツセンターにて今年度 3 回目の研修会を実施致しました。

当日は、講師に社団法人日本スポーツ吹き矢協会障害者サポート部 部長である荒井 和子氏にスポーツ吹き矢の実技指導を中心とした内容の講習が行われました。また、アシスタントとして協会より 5 名の方に受講生の実技指導を担当していただきました。

一個人として体験してみて感じた事は「吹く」と言う動作が容易ではない事を再認識しました。

また、研修の開催に際し受講生の事前申込が少なかつた事に研修担当としては今後の研修内容(場所、時間など)を精査が必要と思われました。

今後は、皆さんに参加したよかつたと思われるような研修を企画していきたいと思われました。(研修部)



車いすバスケットボール部門で…

「車椅子バスケット大会に参加して」

9月に葛飾区総合スポーツセンターで行われました、都大会車椅子バスケットボール大会に参加させて頂きました。私は当日、大会の横断幕を張る作業や体育館の入り口で車椅子のタイヤを拭く作業、写真撮影などをやらせて頂きました。他のボランティアの方と交代しながらだったので、その他の時間は観戦に没頭させて頂きました。選手の激しいぶつかり合い、迫力ある試合をコート間近で見られるのです。そんな機会を逃すなんてもったいないです、ぜひ多くの方にも体験して頂きたいです。私は今回もボランティアの特権と思い、試合観戦もとても楽しませて頂きました。

私がこの大会に参加させて頂くのは2回目でした。たった2回でも、去年初めて参加させて頂いた時と違うのは大会の雰囲気なんとなくでも分かっていたことです。今までは周りの方々に教えて頂くことばかり(もちろん今回もそうですが)でしたが、自分が経験させて頂いたことを周りの方に伝え、さらに学ばせて頂く機会を増やしたり、ネットワークを広げていきたいと思えます。(S)

第 10 回東京都障害者スポーツ大会 「車椅子バスケットボール」に参加して

今回、知人からのお誘いで、バスケットボールのルールもあまり分からずに、ボランティアに参加させていただきました。スタッフの皆様のお取り計らいにより、試合観戦も十分にさせていただきました。まったく知識がない中で、初めて目にした車椅子バスケットの迫力に、私はすっかり魅せられ、あっという間に一日が終わってしまいました。お手伝いとして参加したにもかかわらず、お力になれることはほとんどなく、ただ個人的にとっても楽しい時間を過ごさせていただいた感じのような感じで申し訳なく思っていますが、「初回はそれでいい」と言ってくれる皆様のお言葉を信じ、本当に楽しく終わりました。

私個人では、精神障害者を対象にしたボランティアを 15 年ほど続けておりますが、身体障害者の方とのイベントに関わったことはありませんでした。今回感じました事は、障害者の方も健常者の方も、隔たりがあまりないということでした。とても活気のある印象でした。また、お手伝いさせていただける機会がありましたら、今度はもっと皆様の力になれるよう、がんばりたいと思います。

まずは、この経験で得られたものを、私達の活動にも生かせることだと考えております。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。(Y)

車いすバスケットボール大会のボランティアに協力して

車椅子バスケットの素晴らしい大会のボランティアに参加させて頂き、誠にありがとうございました。先日ボラ参加した、パラユースゲームズで縁を得ました、東京都障害者スポーツ協会さんのご紹介です。パラユースゲームズでも素敵なご縁が沢山ありましたが、今回も素晴らしい出会いを賜り感謝してもしきれません。(しかもお足代まで頂戴してしまいました。)

今回は、初参加と言う事で勝手もわからず仕舞いでしたが、恐縮にも大先輩(お世話になりました障害者スポーツボランティアのカリスマ島さん)の暖かい御心に包まれ(甘え!)ほとんどすっかり魅了されてしまった、車椅子バスケットの試合観戦が主体になってしまいました。(と言うかそれだけ、車椅子バスケットの魅力は人々を感涙し、素晴らしい世界に誇れる 1 競技だと思知りました!)

しかも同じくパラユースゲームズで、お顔見知りになられる事が出来た協会の方とも再会が出来、お話しをすると、あの! 車椅子バスケットのカリスマ及川さん(あの↑リアル! の↑)の奥様だった事が判明し! 驚愕を頂戴致してしまいました!! 恐るべし!!! (笑)

まるでファンの気持ちで仕事は疎かになってはならないと留意はしておりましたが、今回は本部さまの取り仕切りの甲斐もあり、いつもより楽なボランティアだったようです。私はまず開会式前の駐車場の先頭受付を請負いまして、賞味 2 時間未満でしたが、やはり選手達の集合時間はラッシュが続きまして、ちょっとプレッシャーでしたが、関係者の方々含め皆様心のきれいな方々ばかりで、すんなりと終わりましたが、入場口まで入る事が出来ない選手の車も何台か出てしまい、車椅子で、競技用の車椅子を押しながら坂道を登らなければならない状況になってしまったのは、今後の課題と思いました。(まだ、駐車スペースがあるにも関わらず、案内出来なかった原因と、健常者バスケットの方々もいつも使い慣れている為に、今回は入場禁止にも関わらず、気づかずに駐車してしまった。)等を私自身猛省しなければと思います!

他役員室へのお弁当配達。体育館入り口での管理。表彰式での音響担当(これにはビビりましたが! 無事に済み、ホッと凄く生まれて初めての良き体験でしたっ!)

語ると長くなり、まとまりがなくなりますが、私は決意しました! 私自身が目指す! わが、台東区での『総合型地域スポーツクラブ』創立の夢を、車椅子バスケット台東チームの結成を目指し! その起爆剤にする事を!! 絶対にやります! そしてその為にも障害者指導の資格取得はもちろんの事! 台東区での障害者スポーツの普及に努め、わが日本での障害者スポーツ地位向上の一如になれば、と祈ります!(A)

ゴールボール部門で...

ゴールボール大会に参加して

11 月 20 日、21 日に王子のスポーツセンターと特別支援学校で行われました、日本ゴールボール選手権大会に参加させて頂きました。選手のスローの迫力や、研ぎ澄まされた聴覚やボールに向かう俊敏な動き、チームワークなど、ゴールボールをますます興味深く感じた大会でした。

私は 20 日のみの参加でしたが、オフィシャル席でショットレコーダーや試合前の選手紹介のアナウンス、試合結果を星取表に記入する作業などをやらせて頂きました。オフィシャルは試合を公平にジャッジしたり、スムーズに進めるために重要な役割です。私がやらせて頂いたショットレコーダーは、主にどの選手がスローをしどの選手がキャッチをしたか等を、試合を詳細に記録するスコアラーに伝える役割です。ショットレコーダーをやらせて頂いて気付いたことが何点かありました。例えば、正確に伝えるために試合に出ている選手の背番号を手元に控え、それを指で差しながら伝えました。また、選手の背番号を伝える時に私の「1 (いち)」と「8 (はち)」の発音が似

ていることに気が付き、スコアラーにきちんと伝わるように発音に配慮しました。

このような大会に参加させて頂くと、今回も多くの方々からボランティアの私達に「協力ありがとうございました」と言葉を頂きます。いつも「私の方こそ支えて頂いてありがとうございます」と思います。私はまだ経験が浅く、ゴールボールのルールも勉強中で、今回やらせて頂いた中でもたくさん間違えをし、周りの方々にたくさん迷惑をかけてしまったと思います。しかし、不慣れな私にも丁寧に教えて頂いたり、いろいろな役割にチャレンジさせて頂いたり、失敗も受け入れてくださり、体験したり成長させて頂くチャンスをたくさん頂いて感謝の気持ちでいっぱいです。少しずつですが、体験を積み重ねていきたいです。選手はじめ当日会場でお世話になった全ての方々にこの場を借りてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。(S)

ゴールボール選手権大会に参加して

今大会は私にとって二度目のゴールボール大会でした。初参加だったアジアユースパラゲームズでは何もわからず、言われたことだけをやっていただけでしたが、今回の全日本選手権では色々な発見がありました。その1つとして挙げられるのが音の大切さです。ゴールボールでは試合中は絶対に音を出してはいけないが、試合の合間やハーフタイム、ゴール時などには音を鳴らし盛り上げる。このことを以前は1つの競技をする上での決まりとしかとらえていませんでした。ですが今大会を通して、プレーヤーはもちろん観客にも耳を頼りにしている人が多いため、その様な人にも試合の流れがわかりやすいようにと学びました。他にも、普段どれだけ自分が視覚に頼り生活していたかということや、ゴールボールの素晴らしさ、楽しさに改めて気づきました。

しかし1つ残念に思ったこともあります。それは日本でのゴールボールというスポーツの知名度の低さです。アジアユースではじめてゴールボールに出会った私ですが、試合をみたりゴールジャッチをやらせて頂いたり、協会の方や先輩やベテランボランティアの方々からお話を聞いたり、そして何より実際に体験したりする中でゴールボールをもっと知りたい・もっと見たいという思いが芽生えました。確かにゴールボールは陸上競技や車椅子バスケットニスなど健常者のスポーツを障害者が出来るように工夫を加えたスポーツと異なり、名前を聞いただけでは一般的に想像しにくいスポーツかもしれません。でも、だからこそ新たな発見や自分に足りないものへの気づきがあるのだと思うし、それが魅力でもあると思います。色々な人に見てもらいできれば体験してもらおう。どんな事ができるのかはまだわかりませんが、ゴールボールを含めた障害者スポーツの活性化が、延いては障害者への理解につながるよう、微力ながらこれからもお力になればと思います。(N.K)

ゴールボール大会ボランティアに参加して

今までゴールボールという競技は実際に見た事が無く、ボランティアにも始めて参加させて頂き、ゴールボールの競技そのものの難しさ、奥深さを感じるとともに、大会全体の流れの中で BGM を効果的に使い試合を盛り上げているのがとても印象的でした。

私は、今回のボランティア2日間その BGM を流す大役を任せられ、始めはただ BGM を流すだけ、といった軽い感じで考えていましたが、大会が進むにつれ、試合中のあの静けさとそれ以外の時の会場の盛り上がりのギャップがゴールボールの楽しさの一つで、観客もボランティアも一緒に試合を盛り上げていけて、試合を見ているというより参加している楽しさを味わう事の出来る素晴らしいスポーツだと感じ、BGM の重要さにも気が付きました。そして、後半にはいかに効果的に BGM を流して試合を盛り上げるかを、素人ながら考えて取り組み、試合を盛り上げながら自分も一緒に試合を楽しんでいました。

しかし、ゴールボールに限った事ではありませんが、障がい者スポーツ全体の世間の認知度の低さ、大会での観客の少なさがとても残念でなりません。

私もボランティアを始めるまでは障がい者スポーツに対してあまり興味を持っていませんでしたが、実際に関わってみて、それぞれの競技にハンデのある選手たちがより一層輝きを増す事の出来る競技特性・醍醐味があり、普段目にする競技とは違った感動・楽しさに引き込まれました。

今後、初級障害者スポーツ指導員の一人として、もっともっと多くの方に障がい者スポーツを知って頂き、素晴らしさ・楽しさに引き込んでいけるよう活動していきます。以上(T)

陸上競技部門では…

はばたき陸上大会の感想

私は、今回で2回目の参加でした。去年もそして今年も思ったことは、この大会では障害をもった人たちに混ざって近くの中学生や、団体の介助者の人たち...すなわち健常者の人たちも一緒になって参加しています。その中で特に中学生の学生さんたちはとても良い顔で参加しているのを見てとても温もりを感じました。

私は、先月のアジアユースパラゲームズでもゴールボールのボランティアとして参加させて頂きました。残念ながら観客の数は多いと言えるほどではありませんでした。しかしこれは一般の人たちが興味がないのではなく、

ただ障害者スポーツのことを知らないだけではないのかと考えます。私も、大学の実習で障害者スポーツと出会うまでこんな種類の障害者スポーツがあるなんて知りませんでした。私が言いたいことは、障害者スポーツの普及のためにも「きっかけ」というものが大切なのではないかと思えます。今回アジアユースパラゲームスと一緒にボランティアとして参加した学生のほとんどが障害者スポーツに興味を持ち出しています。

「きっかけ」をたくさん作るためにも今回のようなはばたき大会をいろいろな場所でたくさん行い、まだ障害者スポーツを知らない人に「きっかけ」を与えればいいなと思いました。そういった大会を運営するためにも協会のスタッフの方々や、ボランティアの方々の力というのが大切だと思います。だから、私はできる限りやれるときはボランティアとしてお手伝いができたらいいなと思えます。思えます。(M)



ボッチャで広がる交流

10月31日、東京体育館で実施された障害者スポーツ大会の「ボッチャ競技」に参加した。私が始めてボッチャを経験したのは、昨年の12月に東京体育館で行われたボッチャ体験イベントで、今回のようなきちんとした大会へ参加するのが初めてのことだった。

東京都障害者スポーツセンターでは、ボッチャのクラブチームがいくつか存在し、皆が和気あいあいと練習をされている。昨年のボッチャ体験の後、その中の一つのクラブチームにボランティアと言う形で何度か参加させて頂き、選手の皆さんやボッチャに関わる多くの方からさまざまなお話を聞けるようになった。ルールは今少しずつ学んでいる真っ最中だが、魅力というのか、ボッチャが多くの人を引き付ける競技であることがこんな、私でさえも感じられるほど、誰もが入りやすい競技だと思う。

障害をも持っている、いないに関わらず、誰でも気軽に楽しめて夢中になれるスポーツ。スポーツ全般が苦手という人も世の中には沢山いると思うけれど、そんな人でもためらいなく始められる魅力がボッチャにはあると思う。誰もが参加でき皆で楽しく行える、そのような気軽なスポーツが、実はあるようでありえないのではないかと感じることもある。ボッチャはそういった壁を取り払ってくれる代表的なスポーツとして、これからますます注目されていくだろう。

今回の大会の後、私が勤める高齢者施設で、レクリエーションとしてボッチャを真似た遊びを行ってみた。球を投げる様子は皆真剣そのもの。普段はあまりレクリエーションに参加しがないご利用者様でさえも、その時は、真剣になって行った。全員が一体となったレクリエーションで、周りの職員もビックリしていた程だった。皆初めての体験だったにも関わらず夢中になっていた。それだけ人を引き付ける魅力がボッチャにはあるということ、改めて実感した出来事だった。

もし、スポーツというだけで一線を置いてしまう人がいるとしたならば、それは本当に勿体ない！まずはボッチャから、可能性を広げてみることをお勧めします。可能性が広がれば、その分交流も広まる。皆が楽しく気軽にスポーツを始められる日は、実は意外とすぐにやってくるのではないのでしょうか。(T.K)

1球に込める思いを感じて（関東ボッチャ大会）

12月26日に葛飾区総合スポーツセンターで行われました、関東ボッチャ選手権大会に参加し、当日は審判として活動させて頂きました。

私はボッチャの公式戦を見ることが初めてだったので、ボッチャがこんなに繊細で、とても熱い競技だということを知りませんでした。特に印象的だったのは、スローを投げる前の静かな間です。選手が見つめる先にはジャックボールや相手のボールがあり、静かに闘志を燃やしながら駆け引きや戦略を練り、次にどんなボールを投げようか、そのために車椅子の向きやランプスの位置の工夫など、1つのボールに対する重みをとても強く感じました。

審判では、私はタイマーと副審を交替でやらせて頂きました。選手の緊張感以上に緊張してしまった試合もありました。でも、一緒に活動させて頂いたベテランの審判の方々にとっても丁寧に教えて頂いたり、試合中にも分からないことがあれば言葉やアイコンタクトで確認させて頂き、とても安心して参加することができました。どの競技でもそうだと思いますが、審判のチームワークが良いことで、選手が気持ちよく試合ができることを改めて感じました。

最後になりましたが、当日関わらせて頂いた選手や役員、ボランティア、会場でお世話になった方々にお礼申し上げます。(S)



理事会報告

◆ 平成 21 年度 第 3 回 理事会

日 時：平成 21 年 10 月 7 日（水）午後 7 時から

出席者：前田、岡、佐野(守)、佐野(里)、秋山、島、井上、松浦、神保、三浦、近藤、高山、有泉

会長より

- ・ 1 月 11 日戸山サンライズにてブロック長会議が開催される。
- ・ 指導者協議会の規程等について検討される。

関東ブロック実践研究発表会について

- ・ 徐々に申し込みが来ている。
- ・ 指導員協議会 HP にはアップ済み。
- ・ 関東ブロック幹事会の開催⇒ 1 1 月 2 1 日(土)午前中に総合 SC にて開催。

東京都障害者スポーツ協会より

協会、センター事業に指導員の皆様のご協力頂き感謝しております。また、昨年度に引き続き当協会の団体正会員としてのご支援を頂き、心より御礼申し上げます。

大会等への協力では、アジアユースパラゲームズ、全国障害者スポーツ大会東京都選手団役員等に協力頂き感謝申し上げます。特にアジアユースパラゲームズでは、競技審判員、競技補助員、選手村の選手対応係員として多くの皆様に協力頂きましたことを主催者の一人としてお礼申し上げます。選手村の窓口では、様々な要望に対処頂き、また最終日には選手団の残したゴミの対応までお手伝いいただき本当にありがとうございました。今後もよろしくお願い致します。



その他ユース大会について

- ・ 世界から呼んだ競技役員(TD)などの対応が良くなかった。
- ・ 観客が少なかった。
- ・ ボランティアの方への対応が今一つであった。

総務部より

- ・ 杉並地域大学について
参加者 26 名
選手の島さんにスラロームの講師を務めて頂きコースの回り方等の説明をしてもらった。
地域大学の実施回数は、残り 3 回
11 月 7 日わいわいスポーツに参加後、グループワークを実施する。グループワークへ協力する協議会理事は、三浦、岡、佐野、井上、あと 2 名は後日依頼する。
- ・ 忘年会について 実施しない。

研修部より

- ・ スポーツ吹矢研修について
講師には連絡も取れており、当日を待つのみ。
杉並地域大学受講生へ研修会の情報提供することとなる。

会計・事務局より

- ・ 東京都障害者スポーツ協会団体正会員費を支払った。今後も互いの良好な協力体制を維持したい。
- ・ 事務局活動は、協議会 HP の更新作業、メールへの回答、郵送物など書類の整理、たより発行等の作業を行っている。
- ・ メール環境が整備されている方が多くなっているため、会員登録の際メール配信に関する確認を行えば、経費の節約とタイムリーな情報提供ができるのでは ⇒ 今後検討

広報部より

- ・ 10 月 7 日にたよりを発行
次回のたより発行は、来年 1 月 6 日予定
次回たよりの原稿締め切り 12 月 28 日とする。内容は、全国障害者スポーツ大会、実践研究発表会、杉並地域

大学、スポーツ吹矢研修など

次回理事会 12月16日(水) 19:00から

◆ 平成 21 年度 第 4 回 理事会

日時：平成 21 年 12 月 16 日（水）午後 7 時から

会長挨拶

今年一年間ありがとうございました。障害者スポーツ指導者協議会運営の細則（案）また、アジアユースパラゲームスにおいて東京都障害者スポーツ指導員が活躍したことについて認知された。

《報告事項》

(1)指導者協議会規約等（前田会長）

- ・神奈川牛島さんより修正箇所があり研修部水原さんに提出
- ・2月2,3,4日に行われる3協議会に前田会長、岡副会長が出席予定
- ・運営委員長に高知の小林順さんが内定。運営副委員長は照会中
- ・12条の活動費については関東ブロックについては従来通りで実施する。

(2)指導部会（高山）

- ・研修部、情報部は活動しているようだが、指導部については現在のところ活動していない。

(3)研修部（植田副会長）

- ・1月20日に会合があり、2月13,14日に行われる全国指導者協議会研修会の準備を行った。参加人数が少ない
- ・若手研修会は、愛知県で実施する。

関東ブロックの動き（前田）

- ・障害者スポーツ指導者協議会運営の細則（案）の確認。
- ・実践研究発表会の継続

実践研究発表会について（植田）

- ・延べ80名に参加 発表4件 最優秀賞「指導者が作ったNPOゆめけんの実践」
- ・J S A D 誌「関東ブロックのコーナー」に掲載 藤極さんの訃報も掲載
- ・平成22年度開催 平成22年1月13日（土）～14日（日）

東京都障害者スポーツ協会等の動き

- ・25日に第11回東京都障害者スポーツ大会実行委員会を予定
- ・東京マラソンレース部門は小島さん イベントについては村松さんが担当する。
- ・それぞれが行っている研修会等において参加者が少ない。協会、両スポーツセンター、指導員協議会が連携して実施する必要がある。施設職員対象の講習会は参加者多く好評だった。
- ・初級障害者スポーツ指導員養成講習会を2月13日、14日、20日、21日、27日の5日間で行う。

その他

- ・全国障害者スポーツ大会において「ボッチャ」競技が、正式種目に加わることはない。オープン競技としては、可能

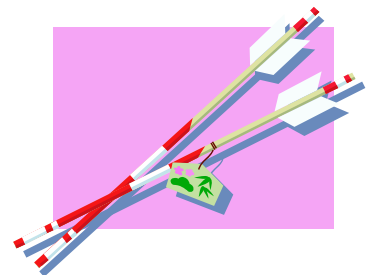
《協議事項》

総務部

- ・杉並地域大学「指導者養成講座」修了 受講者25名 次年度も実施
- 関東ブロック活動（次年度予定）
 - ・幹事会 6月、11月・2月
 - ・障害者スポーツ指導者活動報告研修会（実践研究発表会から名称変更）

事業計画

- ・総会 4月24日（土） 理事会6回 部会3回
- ・地域振興 ・懇親会（都スポ協・暑気払い・忘年会）
- ・総会前に活動会員登録、総会案内（出欠確認）、協力依頼、人材バンク継続の可否など一括して発送したい。
- ・今年度の事業報告、次年度の事業計画を各部会より提出



研修部

今年度の研修事業計画に沿っての進捗状況

4 回中 3 回実施済み すべて総合 S C にて開催

- ・平成 21 年 4 月 25 日 総会時研修 (レクリエーションエクササイズ)
- ・平成 21 年 7 月 18 日 基本的な障害区分の理解のために
- ・平成 21 年 11 月 14 日 スポーツ吹き矢
- ・未実施 大学研究室の見学 小林寛道先生の研究室にて 2 月及び 3 月の月曜日 16:00~17:00 で実施に向け調整中

次年度の研修事業計画 (案) について

- ・年間 4 回の予定 研修時間は 2 時間をめどに実施
- ・総会時研修 ニュースポーツ: ドッチビー
- ・7 月頃 多摩障害者 S C: レク的な球技 (センター職員講師)
- ・秋頃 ハンドサッカー (今年の関東ブロック研修会懇親会で話題に上がった種目、関東ブロック研修のプログラムに組み込み予定)
- ・時期未定 総合 S C にて「レクを活用した地域活動のノウハウについて」(センター職員講師)
- ・筑波大学 澤井先生の講演会 両センターで調整

会計・事務局

- ・総会で (案) を提出 (2 月締め)
- ・次年度予算を各部会から提出
- ・HP の更新について、水曜日事務局不在の場合があるので、急ぎの場合など直接管理会社に送信してほしい。マニュアルを作成する。

その他

- ・次回理事会 平成 22 年 2 月 19 日 (金) 19:00 東京都障害者スポーツ協会にて

事務局からのお知らせ

◆ 第4回指導員協議会主催 研修会のお知らせ

今回は、施設見学です。

日 時：2010年3月8日午後4時～5時

場 所：東京大学 柏Ⅱキャンパス生涯スポーツ健康科学研究センター

小林寛道先生（東大名誉教授）

小林先生が研究・開発したシステムは、従来の筋肉・心肺系の身体パーツのトレーニングマシンと異なり、「血圧が上がらないマシン」「重力から独立した特殊な負荷を与える」「体の深い部分の筋肉を鍛える」などの特徴を有し、低体力の高齢者でもトレーニングが可能で、脳・神経系を活性化する脳を中枢とした総合的身体気能・運動機能を高めることを重視している先生の施設見学です

定 員：先着 15名

申し込み方法：東京都障害者スポーツ指導員協議会宛 **FAX 03-5206-5587** のみ

お名前と連絡方法（連絡先）をはっきりとお書きください。

詳細について：決定した15名には後日連絡をさせていただきます。

問い合わせ先：東京都障害者スポーツ指導員協議会 研修担当 井上

E-mail:cyathinn@hotmail.co.jp 水曜日のみ事務局直通 090-1034-5963

◆ 22年度新規講師・サポーター募集

新宿青年教室（新宿コズミックスポーツセンター）

新宿青年教室は、知的発達障がいのある方を対象として、30歳以上の「仲良しクラブ」と30歳未満の「青空クラブ」の2グループが日曜日にスポーツや趣味的な活動をしています。青年教室では4月からの1年間、スポーツなどの分野で活動プログラムをコーディネートしていただける講師の方と、講師の補助ならびに受講生をサポートして下さる方を募集しています。

【活動日】①仲良しクラブ 第1・第3日曜日

②青空クラブ 第2・第4日曜日

平成21年4月から平成22年3月までの年間21回（8月はお休み）

※講師…①または②のクラブに年間通してご協力いただける方。

※サポーター…月1回でも、半日だけでも、ご都合のよい日だけでも構いません。

【時 間】午前9時30分～午後4時

【会 場】新宿青年教室（西新宿4-35-28）

【謝 礼】講師…10,000円 サポーター…2,000円

【申込み】新宿コズミックスポーツセンター事業一課

☎03-3232-5121 または FAX03-3209-1833 まで

担当 武田・佐藤

◆ フットベースボール審判員養成講習会のお知らせ(日程が変更になりました)

日 時：平成22年3月7日(日) 13:00～16:00

場 所：東京都立青鳥特別支援学校

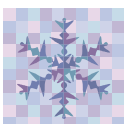
定 員：30名

申込先：下記に2月25日(木)までに申し込み下さい。詳細はスポーツ協会のHPをご覧ください。

東京都障害者スポーツ協会 フットベースボール審判員養成講習会 担当 本田

TEL03-5206-5586 Fax03-5206-5587

編集後記



2010年は穏やかに明け、箱根駅伝を例年通りテレビ観戦。我が家では娘息子たちが孫を交え家族で逗留し、久しぶりのにぎやかな声についつい好きな料理を用意して、楽しむ子供たちをながめて「幸せ」を感じる親ばかぶり。元気な姿に目を細めホッとしながら腰をさする我が姿。来てよし帰ってよしとはよく言ったものだ。医師から言われる加齢の意味がここでわかったトホホホッ… (0)